

秩父地域における人と野生動物との 共存のための実践的活動

ツキノワ会
代表 三瓶 芳樹

1 8年度活動実績表

2 活動報告

- (1) 第12回秩父浦山観察会
- (2) ツキノワセミナー「浦山のキノコ達」
- (3) 第13回秩父浦山観察会
- (4) ツキノワセミナー「秩父で炭焼き体験」
- (5) 講演会（第1回、第2回）
- (6) 広葉樹植林（第1回、第2回）

2-1(1)

行 事 名：第12回秩父浦山観察会

「しいたけのコマ打ちに挑戦！」

開催日時：平成8年5月11日～12日

場 所：秩父市浦山ツキノワ荘とその周辺

参加人数：16名（うちスタッフ4名）

目 的：自然観察、林業体験

内 容：ムササビ観察、ネイチャーゲーム等と併せ、しいたけほだ木にコマを
打つ作業を行った。（助成金対象外）

2-1(2)

行 事 名：ツキノワセミナー「浦山のキノコ達」

開催日時：平成8年9月28日～29日

場 所：秩父市浦山ツキノワ荘周辺

参加人数：14名（うち講師1名、スタッフ4名）（宿泊はツキノワ荘使用）

目 的：野生きのこ観察

最近会員の間でも関心の高い、キノコの観察を通じて、森林への知識を深める。また、少量を採集・料理することにより、昔から人間が森林の恵みを受けてきたことに気づくことを目的とする。

内 容：ハイキングをしながら野生キノコの観察を行った。また、名前のわからないキノコ・食べられるキノコは少量ずつツキノワ荘に持ち帰り、講師の指導の下でそれぞれ種類の同定、料理を行った。

2-(3)

行 事 名：第13回秩父浦山観察会

「広葉樹の森を育てよう」

開催日時：平成8年10月27日（日帰り）

場 所：秩父市浦山地区

参加人数：21名（うちスタッフ4名）

講 師：埼玉県林業試験場 崎尾 均氏

目 的：自然観察、ドングリ拾い

広葉樹植林のプレ・イベントとして企画。植林予定地周辺の森林を観察し広葉樹に対する知識を深める。また、将来の植林活動に備えて参加者が自宅で苗を育てるため、コナラ等のドングリを採集する。

内 容：一般公募による参加者をマイクロバスにて浦山の山林に連れて行き、森林観察・ドングリ採集を行った。専門家を講師に招き、広葉樹林の働き、構成樹種等について説明を聞いた。ドングリは参加者が自宅で栽培中。

2-(4)

行 事 名：ツキノワセミナー

「秩父で炭焼き体験」

開催日時：平成8年11月3日（日帰り）

場 所：秩父市浦山 原島秀夫氏宅

参加人数：26名（うちスタッフ3名）

講 師：炭やきの会 山田 嗣 氏

炭窯所有者 原島 秀夫氏

目 的：炭焼きという林業体験を通じて、広葉樹の効能を知ることが目的とする。

内 容：集合後、地元の本格的な炭窯を見学し、窯の所有者に使用方法等を伺う。その後、原島氏宅のドラムカンによる簡易炭窯にて、炭焼きの作業を行う。

通常、作業の終了まで2日かかるため、前日に焼いておいて炭を窯から取り出す作業から始めた。参加者は、マキ割り、炭材をくべる等の作業を体験し、原島氏・山田氏から随時説明を受けた。

また、身近な材料による実験としてアルミホイルと割りばしによる炭づくりも行った。

2-(5)-1

行事名：ツキノワ会講演会

「森と川のつながり」

講師：埼玉県林業試験場 崎尾 均氏

「イエローストーンの森と野生動物」

講師：スティーブ・ブラウン氏

開催日時：平成8年11月16日

場所：東京都千駄ヶ谷区民会館

参加人数：26名（うちスタッフ5名）

目的：植林活動に先立ち、広葉樹林についての知識を深める。

アメリカの国立公園における、現状や問題点等についての話を聞く。

内容：第1部は、特に植林予定地と近い条件に発達する溪畔林の成り立ちや種組成について、及びこれからの森作りについて話を伺った。

第2部は、イエローストーン国立公園のツアーガイドである講師から、同公園の自然のすばらしさとともに、観光客の増加・山火事等が森林と野生動物に与える影響について伺った。動物の声の録音テープ等を使用。第1部が知識を得るための講演内容であるのに対し、第2部は楽しむ内容となった。

2-(5)-2

行事名：ツキノワ会講演会

「野生動物にとって生き残れる森とは」

講師：元上野動物園園長、現麻布獣医畜産大学 教授 増井 光子氏

開催日時：平成9年3月1日

場所：東京都恵比寿区民会館

参加人数：52名（うちスタッフ7名）

目的：動物園の獣医・園長として、また、野生動物調査のフィールドワークの経験豊富な講師から動物をめぐる諸問題について伺うことにより、野生動物に対する認識を深める。

内 容：一方的な講演でなく、講師と司会者（スタッフ）との対談形式をとり、参加者からの質問・意見を随時取り入れながら進行した。都市住民が動物について考える時、独善的な視点に陥ることがあるが講師は豊富な経験談を交えながら、野生動物と人間の望ましい関わり方について話された。

2－(6)

行 事 名：広葉樹植林（第1回、第2回）

開催日時及び参加者：

第1回 平成9年3月23日
52名（うちスタッフ9名）

第2回 平成9年4月13日
83名（うちスタッフ10名）

協 賛：水質資源開発公団浦山ダム建設所

協 力：埼玉県秩父農林振興センター
秩父市森林組合

目 的：

(a) 都市住民が森林を考えるきっかけを作る

都市部に住む住民は、水源としてまた、保健休養・レクリエーションの場として森林の恩恵を受けている。ダムサイトに植林をすることにより、水源としての森林に対する意識を啓発する。

また、周辺はほとんどが人工針葉樹林であることから、多様な生態系の維持のために広葉樹林も必要であることをPRする場とする。

(b) 人と野生動物の共存できる森を作る

秩父市浦山地区でも野生動物の生息に必要な広葉樹林は減少し、ほとんどがスギ・ヒノキの植林地となっている一方で、サルやシカ等による農作物に対する被害が生じている。広葉樹林を増やし、秩父の生態系を回復させることで、被害を減らす一助とする。

協力機関：植林を実行するに当たって、各行政機関等から以下のとおり協力を受けた。

(a) 水質資源開発公団浦山ダム建設所

- ・協賛
- ・植林用地の提供
- ・当日のバス・ヘルメットの提供

- (b) 埼玉県林業試験場
 - ・プレイベント（観察会）での解説
 - ・講演会講師
 - ・植林樹種に関するアドバイス

- (c) 埼玉県農林振興センター
 - ・当日の参加者への技術指導
 - ・植林用クワの借与

内 容：

- (a) 実施までのスケジュール 別紙資料 1
- (b) 用地に関する協定書 別紙資料 2
- (c) 当日の日程 別紙資料 3
- (d) 募集要領・チラシ 別紙資料 4
- (e) 参加者感想文（抜粋） 別紙資料 5

実施結果および反省：

1 参加者について

- (a) マスコミで広く参加者を募集したため、地元から兵庫県宝塚市まで広範囲の参加があった。また、年齢性別も多様であった。
- (b) 行政機関の協力を得られたため、バスや道具を借りることができ、参加者の輸送や作業の流れがスムーズにできた。
- (c) 参加者の反応は予想以上に良く、充実感を得てもらうことができた様である。水源や森林に対する関心を喚起するきっかけには十分なり得たと考えられる。
- (d) 第1回目は主催者も不慣れであり、気温も低く、作業後の参加者との交流がやや不十分であった。2回目は進行もより順調で天気も良く、参加者に樹種選定の理由や今後の管理まで、十分に説明する余裕ができた。
- (e) 事故、ケガが全くなかった。

2 事前の準備について

- (a) 当会にとって初めての試みであったため不慣れな部分が多かった。
- (b) 事前に他の市民団体等の植林行事に参加または調査できれば、より充実したプログラムを作ることができたと思われる。
- (c) 地元の部落、森林組合等に反感を持たれないよう、活動についての十分な説明が必要であることがわかった。

3 技術面について

(a) 樹種の選定については、試験場のアドバイスも受け、極力秩父低山の自然植生に近づけるようにした。しかし、苗木調達の関係上斜面下部にトチノキを植えることができなかった。また、当初計画にはなかったカマツカ・ヤマツツジ・アセビを取り入れた。

(別紙「植樹計画書」参照)

(b) 植栽箇所割りばしを立てるアイデアは安価で時間もかからず、参加者にも分かりやすかった。

(c) 1回目では支柱への固定の仕方(シュロ縄の結び方)が不適切な苗木が見られたため、2回目は事前にやり方を実演した上、1回目に植林した苗木の「結び直し」も行った。



連絡誌51号

1996.11.8

ツキノワの会
一人と野生動物との共存を考える



目次

<広葉樹植林計画の経過報告(3)>	P1
<担当者連絡先>	P1
<足尾だより>第30回足尾野生動物観察会報告(10/5,6)	P2
<三宅島だより>島の生活(青谷 知巳)	P3
<ツキノワゼミ>三報告「真山のキノコたち」に参加して(後藤 康勝)	P5
<日本ツキノワクマ熊報告>「クマを語る楽しい」に参加して(河部 淳)	P6
<会費投稿>広葉樹の植林について考えたいこと(田島 弘明)	P7
<「広葉樹の森を育てよう」報告(10/27)>	P8
<Nature News>「シカ1,500頭捕獲へ」「イルカ追い込み漁に異議あり」	P9
<イベント情報>編集	P10



連絡誌53号

1997.3.28

ツキノワの会
一人と野生動物との共存を考える



目次

<今後の予定>	P1
<広葉樹植林計画の経過報告(8)>(村山俊美子)	P1
<緊急報告「広葉樹植林者1回大成功!」>(川手隆生)	P2
<第31回足尾野生動物観察会>(川手隆生)	P5
<南中のヨゼミテ自然学校体験ツアーに参加して>(河部 淳)	P7
<熊旅会一野生動物にとって生き残る森とは?>(村山俊美子)	P8
<書籍紹介>『なんでこんな生物いるの』	P10
<広葉樹植林支援書一頁>	P10

1997.3.28 ツキノワ 53号



林道わきでドングリを探す参加者



参加者と植栽された苗木



参加者およびスタッフ



植林する参加者（二人そと組にて作業）



秩父農林振興センターの職員の協力による
植え方の実演



公民館にて昼食



植林地の遠景（向かって右岸の上方）



秩父農林振興センターの職員による
秩父の森林についての説明



苗木を整えるスタッフ



挨拶する会長



植林地全景（右上方に苗木）



講師（増井光子氏）の紹介



西武秩父駅にて参加者受付



地元の炭窯を見学



浦山ダム建設所長
あいさつおよびダムについての説明



原島講師所有のドラムカン窯